

2-28-2 中山道守山宿

守山は古来、東山道の宿駅として栄えた。江戸時代に入り、東山道から中山道に改められた。寛永19年（1642）守山宿は、徳川幕府より、中山道の正式宿場としての制札が下され、認可された。中山道は板橋（東京都）から守山までの67次で守山は最終宿場であった。

江戸時代、旅人の1日の行程は8里（約32キロ）から10里（40キロ）であった。京都三条大橋から守山までが8里6町（約34.4キロ）でこの行程にあたる。京都から中山道を通って江戸方面に行く（東下り）^{あずまくだ}人たちは守山で泊まった。このことから「京だち守山泊まり」と呼ばれ、守山は明治維新まで繁栄した。

平成25年5月

中山道守山宿歴史文化保存会
守山市観光物産協会

説明板より